

# 公社債市場動向 (2020年2月)

## 大和証券 金融市場調査部

【概況】2月の国内債券市場は、中長期ゾーンを中心に金利が大きく低下。株式と債券先物の動きに大きく左右された月だった。前月末から新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念が浮上していたが、2月も感染拡大に伴うリスクセンチメントの悪化が目立った。特に最終週は、イタリアや韓国での感染拡大が嫌気され、株式の大幅下落に伴い債券相場も上昇し、米国金利が過去最低水準を更新し続ける中、JGB10年はこの週だけで9.5bp低下した。

【2/3-7】：3日の国内債券相場は大幅上昇。前週末の欧州時間に新型コロナウイルスの英国内感染事例が目目され、金利が低下した。一方で、先月末公表された2月の日銀オペ方針で超長期ゾーンの買入れ減額が示唆されたこともあり、超長期金利の低下幅は限定的に。JGB10年は▲0.065%で変わらず。4日、5日は中国株の上昇を背景に株高先行で債券が連日下落。5日のJGB10年は▲0.040%まで上昇。6日も、前日海外時間に「新型コロナウイルスへの特效薬が見つかる」との報道が出たことを受け、市場のリスクセンチメントが改善し金利が上昇。30年入札を無難に通過し、JGB10年は▲0.020%に上昇。7日は日銀オペで強めの結果が出たことを受け、JGB10年は▲0.040%に低下。

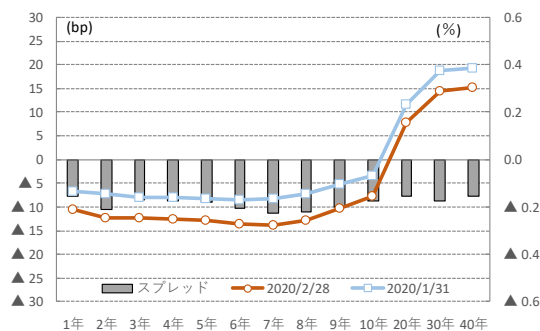
【2/10-14】：前週末の海外時間は、新型コロナウイルスへの懸念が再燃したことで米金利が低下。10日の国内債券相場では日銀オペの結果が甘かったものの、海外金利の低下を引き継ぎJGB10年は▲0.060%に低下。翌11日は建国記念日で国内債券市場は休場。12日は株の上昇を背景にJGB10年は▲0.045%に上昇。13日は海外時間の金利上昇を引き継いだ一方で、寄り付き前にコロナウイルスの感染者数が単日で大幅増加したとの報道を受け、債券は大きく上下した。結局、JGB10年は▲0.035%に上昇。

14日は流動性供給入札を無難に通過する中、動意の薄い展開で、JGB10年は▲0.035%で変わらず。

【2/17-21】：17日の国内市場では新型コロナウイルスへの懸念に加え、日本10-12月期GDP成長率が予想を大きく下回ったことで株安債券高の流れ。JGB10年は▲0.040%に低下。この日の米国債券市場は休場。18日は、前日の海外時間にアップルが売上高目標未達の見通しを発表したことによる株安や、低水準で迎えた5年入札が予想よりも強い結果となったことを受け、引き続き債券が上昇。JGB10年は▲0.055%に大幅低下。19日は、翌日に控えた20年入札への警戒感や株の底打ちにより、JGB10年が▲0.050%に上昇。翌20日は、ドル円が一時112円にまで円安となったことに伴い債券相場が下落。20年入札は強い結果だったものの、JGB10年は▲0.045%に上昇。この日の海外市場では米国の景況感指数が予想より悪化したことを受け、海外金利が低下。21日は海外時間の流れを受け継ぎ、JGB10年は▲0.065%まで大きく低下した。

【2/24-28】：24日は天皇誕生日の振替休日で国内は休場。しかし、週末に新型コロナウイルスの感染領域が欧州圏にまで広がったことを嫌気して、休場の合間に株式先物が大幅下落。日経先物は前日比1000円超下落した。25日、株の大幅下落に合わせて債券相場は上昇。JGB10年は▲0.105%に大きく低下。26日は金利低下が一服したものの、27日には米金利が過去最低の水準となり、JGB10年は再び▲0.110%に低下。週を通して新型コロナウイルスの感染拡大に起因するリスクセンチメントの悪化が目立つが、28日は特に株式の下落がひどく、日経平均は前日比800円超下落した。JGB10年は▲0.160%へと大きく低下し、この月の取引を終えた。

■ 図表：月末からのイールドカーブの変化



出所：Bloomberg

■ 図表：長期金利の推移



出所：Bloomberg